

## 中国の「一人っ子政策」

「陳さんは兄弟があるのですか。一人っ子ではないですか。」

「私は一人っ子政策の前に生まれたのです。」

と、おととし来日してから、そういう問答が繰り返されてきました。

国際交流員として、中国の事情について紹介したり説明したりする時、中国の一人っ子政策についてよく聞かれます。それでは、「一人っ子政策」はいつから始まって、その内容は何でしょうか。

### 「一人っ子政策」とは

「一人っ子政策」は1979年から中国で行われている人口規制政策。公式には「計画生育」と呼ばれています。

30年の歴史を持っている「一人っ子政策は」基本的に「夫婦一組、子供一人」であるが、全国一律「一人っ子」ではありません。例えば、少数民族に対しては免除され、2人の子供を持てるし、農村では、さまざまな条件付で2人の子どもを持てます。都会部でも、夫婦両方とも一人っ子の場合も2人目生んでもいいことになっています。それから、都市部では一人っ子政策は強化ないし遵守されたが、例外枠として双子や多胎児の場合、全員が戸籍を持つことが許可されました。また、「一人っ子政策」は、中国人の夫婦のみに適用されるため、夫と妻の片方が外国人の場合は、この政策は適用されません。

### 「一人っ子政策」の歴史

1957年、北京大学学長の馬寅初は、人口抑制の必要性を理論化した『新人口論』を発表しました。その中で馬寅初は、産児制限を実施して人口を管理するには、まず幅広い宣伝

によって広範な農民大衆に産児制限の重要性を理解させ、産児制限の方法を実際に理解できるようにする必要がある；さらに早婚の害と晩婚の利ということを宣伝する必要がある；計画出産の実行は人口を管理するために最も好ましく、最も効果が大きい方法だが、最も重要なのは避妊を幅広く宣伝することで、人工的な妊娠中絶は絶対に避けなければならない、それは母体内で形成された嬰兒にはすでに生存権があるからであると述べています。だが、毛沢東は人口抑制策の提言を退け、人口は多ければ多いほど生産力の発展にもよいという「人口資本説」を打ち出し、多産を奨励したため人口が爆発的に増加したので

す。

人口政策の転換は、結局 70 年代後半になってからです。1978 年憲法で、「国家は計画出産を提唱する」とうたわれ、1980 年、「今世紀末の人口を 12 億人以下に留め、四つの現代化実現のために」として、「夫婦一組、子供一人」を提唱しました。当時の人口政策の柱は、**晩婚**（法定婚姻年齢男 22 歳、女 20 歳より三年以上遅らせて結婚すること）・**晩産**（女子は 24 歳を過ぎてから出産すること）・**少生**（少なく生むこと）・**稀**（出産間隔を 3~4 年開けること）・**優生**（遺伝的障害がなく、次世代が徳・知・体のどの面でも全面的成長を遂げること）でした。以上の国策としての人口計画執行を裏付ける法令として、1978 年憲法・1982 憲法、国レベルでの『計画出産法』『婚姻法』、各省市レベルでの『計画出産条例』があります。

80 年代に入ってから、「一人っ子政策」が本格化した。82 年憲法は「夫婦双方とも計画出産を実行する義務を負う」と定め、一人っ子政策は国家の基本政策となりました。2002 年 9 月、政府は初めて「人口・計画出産法」を施行しました。産児制限について詳細に規定した同法は、「晩婚」と「一人っ子」の奨励を明記し、これを守る家庭には教育や医療、住宅などで優遇する方針を打ち出す一方で、省・自治区・直轄市の人民代表大会が、地域の実情に応じて例外的に第 2 子の出産を認める規定を設けられるとしています。

### 「一人っ子政策」によって引き起こされた問題

一人っ子政策により、中国はある程度の人口抑制に成功しました。しかし、その一方で本政策はいくつかの問題を抱えています。

まず、人口高齢化の問題です。一国の高齢化社会に入る基準は60歳以上の老人が総人口の10%以上を占め、65歳以上の老人が総人口の7%を占めることです。第5回国勢調査のデータが示しているように、2000年11月1日、中国の60歳以上の人口はすでに総人口の10%を占め、65歳以上の人口は6.96%を占めました。専門家の予測によると、2015年になると、老年人口は2億人を上回って総人口の約14%を占め、2040年には、老年人口は4億人に達して総人口の26%を占めます。簡単に言えば、その時には、中国では平均4人足らずで老人が1人いることになり、一部の大都市では、この比率はさらに高く、2~3人に老人が1人ということになる可能性があります。

次に、男女比のアンバランスことです。中国では、胎児の性別判定検査を厳禁しているが、男児の後継者希望にこたえる意思が後を絶たないです。漢民族の伝統に従うと男子が親の面倒を見ることになるし、農村部においては肉体労働を積極的に手伝ってくれる男児の出産を希望する農民が多いため、性別検査を行い、胎児が女子の場合は中絶手術を行うケースが多発しています。この結果、男女比が偏っています。中国人口統計年鑑によると、女100に対して、0歳児 = 男 117.25、1歳児 = 男 118.89、2歳児 = 男 118.78、3歳児 = 男 119.41、4歳児 = 男 121.06、5歳児 = 男 117.25 であるが、出生男女比は国際的基準で 106 : 100 が正常とされています。21世紀に入り、一人っ子政策の下、生まれ育った「80後」(1980年代に生まれた人)が成人に達しているが、男女比がアンバランスのため、結婚できない男性が急増しています。

それから、計画外出産で、戸籍に登録しない「黒孩子」の出現も問題の一つです。戸籍漏れが生じた理由第一は、産児制限違反の処罰である社会扶養費を支払うのを嫌い、負担逃れによる未届けです。第二は流動人口の急増に戸籍管理がついていけないための戸籍漏れ

です。第三は中国特有の戸籍制度が経済改革下で従来のように重要性を持たなくなったことによる漏れです。黒孩子是、学校教育や医療などの行政サービスを受けることができないといった状況にあるので、国務院は計画外出産の子どもの調査登記と常住戸籍登録申告を許可する措置を取りました。

さらに、一人っ子に対する過保護問題です。中国での伝統的な家庭像は、「多子多福」という言葉のように、大きな家庭で、幼きを慈しみ、老いを敬いながら暮らしていくことですが、それは「一人っ子政策」によって変化を遂げました。子どもが一人しか作れないから、父母や祖父母の愛情と期待はその子一人に集中しています。そういう環境で育てられた子供は、自分で家事を行う経験も乏しいため、自分だけで生活しなければならなくなっても、家事ができないケースがあります。また、思いやりがなくてわがまま、利己的で社交性がないなど、一人っ子の性格的な弱点は数多く取り上げられます。80年代以来、中国の一人っ子が、よく「小皇帝（女兒の場合小公主）」と呼ばれる所以がここにあります。

人口抑制に成功した「一人っ子政策」はどこまで行くか分からないが、それと同時に、ただ一人のわが子を如何に教育するか、高齢化社会に入った中国で如何に高齢者養護保障体制を作ることかということじっくりと考えるべきではないかと思います。